

富山市議会議員

江西照康

令和3年3月定例会 議会傍聴ダイジェスト

令和3年3月9日(火)午前11時～

持ち時間60分 一問一答方式ケーブルテレビ生放送&インターネット生+録画

任期最終の議会を迎えて

市長と議員の違い

いよいよ、森市長の任期満了と市議の改選時期を同時に迎える時まで一ヶ月少々となりました。

私は4年半前、赤字構造の自治体の38人も、企業で言えば取締役クラスにあたる、市議の無責任な給与アップの話を聞いた時、こんな人達には任せておけないと思いました。

当時、森市長も市議のことを公に小馬鹿にし、日頃課長に聞けば済むようなことを議会で質問してくるとまで言っていました。(当時の新聞)

地方自治体は、執行機関のトップである市長と、それをチェックする議員をそれぞれ選挙で選びます。

二元代表制と呼びますが、その役割の違いから、本来主張する内容は異なるはずです。

市議会議員はミニ市長のようなスローガンばかりを掲げるのではなく、問題を提起し、その解決から市政を創り上げていくべきだと考えています。

緊張した初質問

私の議会での初質問は、平成28年12月

日の補欠選挙で当選し、右も左もわからぬまま、会派も新人4人の自民党新風会を名乗っていたので、教えてくれる人も誰もいませんでした。

そんな状況で挑んだ初議会は、質問の摺合せの時から、市役所の次長課長と意見が合わず、同じ会派の新人議員がそれを見ているのも痛々しくて見ちゃおれんと、部屋から出て行っただけでした。

2回目の議会からは、議会改革の一環でインターネット中継と、ケーブルテレビでの放送が始まりました。

今見ると、我ながら恐る恐るの姿勢ですが、それでも、全議員の中で結構、突っ込んでいる方だと思えます。

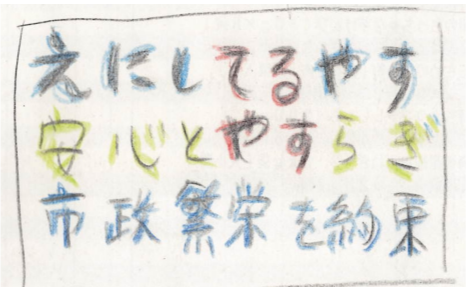
会派自民党

私の1期目は僅か4ヶ月で終了し、2期目である平成29年度からの今期に突入しました。多くの新人議員が当選し、自民会派が割れることを避けたという会派内外の意向もあり、会派自民党に合流しました。

市長答弁は最多

行政のことを勉強し、質問の幅を広げていく中で、森市長の答弁が若干の恐怖から楽しみに変わってきました。

市の職員はどうしても内規や上からの指示が絶対的な正義だと体にしみこんでいると感じることがあります。



お世話になっている方から頂いたコメント

最終号発行に当たり

町内の方や友人が議会を見に来てくれるという時に、何か解説がないと、聞く気にならないだろうと思いつけました。このダイジェスト。いよいよ本任期最終号の発行になりました。

質問日程が決まり、質問する日までは僅か数日。我ながらよく続いたものです。

次の任期のダイジェストも発行出来ることを願っています。



12番江西照康

市議会自民党 副政調会長 経済環境委員長 議会改革検討調査会座長 議会運営委員会委員 政務活動費のあり方検討委員会委員 都市計画審議会委員

発行 富山市打出828 江西 照康

いよいよ本任期最終質問

いよいよ4年間の任期の最終質問となりました。市民目線の政治を全うし一生懸命質問します。

コロナ禍で大変なのに加え、今年は大雪でばたばたの年度末を迎えようとしています。そんな中迎える、新年度予算は、私が12月議会で指摘したとおり、森カラーの強い、比較的大型の骨格予算で上程されてきました。

当面の間、新市長は、大胆に補正を組むことは困難だと思います。更に、来年度、再

令和3年度	令和2年度	対前年度比較	
172,702,846千円	165,508,489千円	7,134,357千円	104%

来年度と市債の償還が上昇してくると考えています。また、団塊の世代が、介護サービスを受ける側となってきました。次期市長は、試練の1期目となるでしょう。暫くの間、森市長の政策や考え方の名残がある

質問時間について

以上、市議としてしっかり行政のチェックを行い、解決にむけた問題の提起を行ってまいります。

江西照康

質問日9日の2番手の質問となります。

当日のトップバッターは同じ会派の高田真里議員で60分の一問一答方式です。

60分の枠があるというだけで、実際には短く終わる可能性もありますので、私の質問をご覧いただく際は、10分ほど前からご覧下さい。

私自身の質問も、少し短めに切り上げる可能性があります。



発行の目的

本傍聴ダイジェストは、私の質問をご覧いただく際の補助資料として、29年12月議会より作成しているもので、本号で、通算14号目の発行となります。

私が質問の際に、どういう考えで質問をしているのか、何を指しているのか、本資料を参考にご覧いただけます。

議会質問は、インターネットで、数日後録画がアップされます。パソコンでスマホで読み取っていただくことができます。



尚、本紙作成および配布に当たり、第1号より、政務活動費は一切使用しておりません。

① 選挙公報について

視覚障害者向けの点字公報の発行は約束通りなされるのか

29年12月議会

私は市議になりたての頃、視覚障害者の方から市議会議員の選挙には行っていないのだという話を聞いた。

なぜならば市議選では、点字の選挙公報がなく、たまたま近くを通りかかった選挙街宣車の名前の連呼を聞く以外は、どのような市議会議員が立候補し、何を訴えているかが全く



— 昨年の「県議会議員選挙」において発行された視覚障がい者向けの点字の選挙公報

分からないという理由があったからである。本来、市長や市議会議員は、行政サービスに最も近い議員であり、市民にとって身近な存在でなければならぬ。視覚障害を持つ方にとって、この大切な選挙への正式な案内が無いことは人権の無視ではないかと私は考え29年12月議会において質問を行った。

次期選挙では作成予定

立候補者が多い、期間が短い、作成できるところが無いといった理由から作成が困難であるが、次期の市議選では、点字公報を用意できるように検討するといった回答であったが、果たしてどうだろうか。

立候補人数も多い、期間が短いといった理由は、

② 軽自動車の納税証明について

車検を受ける際には、その車両の自動車税を納税していることが条件となる。

普通自動車は県税であるが軽自動車税は市税であり、普通自動車の納税用紙は青い封筒だとすぐに思い出せるが、軽自動車税は果たしてどんな封筒に入っているものか、私だけかもしれないが思い出せない。

普通自動車税の領収書は無くしても、ネットワークで繋がっており、特段問題は無いが、軽自動車の領収書を紛失した場合、納税証明を市役所で発行してもらふ必要がある。

その納税証明の発行に際し、車検を行う事業者の方から、市役所の対応について何とかならないものかとの相談を受けた。

富山市において、納税証明書を発行する際には、標識番号（ナンバー）と窓口に来た人と所有者

住所が一致せずとも発行するか否か	
朝日町	○
入善町	○
黒部市	△
魚津市	○
滑川市	△
立山町	○
上市町	○
舟橋村	○
射水市	○
高岡市	○
南砺市	×
砺波市	○
小矢部市	○
氷見市	×
金沢市	○
長野市	○
福井市	○

（納税義務者）の氏名、住所が必要になる。そこで、納税義務者の住所を車検証から書き写した場合、それが住民票の住所と相違していると、富山市役所は納税証明書を発行しないのである。そもそも、車検の際に必要なのは、その車両の自動車税が納付されているかどうかだけであり、納税義務者の情報は不要なのである。

必要な情報が正確かどうかで、書類が発行できないのは、車検整備を行う事業者の時間的ロスと考えると、お役所仕事と言わざるを得ない。現に、左表の通り住所等が一致しなくとも発行

今もあまり変わっていない。それらの課題をどのように克服し、本日に発行するのか。当局に問うものである。

② 雪害について

1月7日から降り出した雪は8日の深夜には1メートルに達した。大雪のピークは11日までであったが、交通の麻痺は暫く続いた。

私は、12日に新庄にある友人の内科胃腸科クリ



ニックで胃カメラの予約を入れていたため、朝早く自宅を出たが、東側には進むものの、南へ向かう道路は、どこも大渋滞している様子だったため結局富山高高校前の交差点まで進み、そこを右折

し南に向かった。南に向かう道路に入っただけなのに、全くと動けなくなるところに、済生会病院からサイレンを鳴らしながら救急車が出勤してきた。

南へ向かう道路は動かないことから、逆走しようとしたのか、暫く反対車線の様子を見ているようだったが、結局あきらめて病院の方向に戻っていった。

雪害被害の考え方

今回の雪害に対し、防災対策課から雪害被害の状況が随時報告されてきていたが、15日には、胸痛や脳卒中、心肺停止となった方々が複数いたにも関わらず、1月末の最終報告では、雪害による人的被害の死者は1名であった。

その把握の手法について確認したところ、雪害とは、除雪作業で誤って転落した等の、雪による直接的な被害のみのカウントであり、それが行政のルールであるというこ

とが分かった。今回の大雪被害の検証を行うに当たり、果たしてそれでよいのだろうか。私は、強い違和感を持っている。

県の検証会議

富山県では、今回の大雪に係る交通政策の検証会議を3回行っている。その際の資料を入手し読んでみたが、まともな検証とは言い難い内容である。

その中に、『大規模な道路交通渋滞は、救える命を救えない結果につながる可能性』との記述はあるが、その可能性について検証、議論は一切されていない。

富山市においても、その数字は、ピックアップすらされていない。今回の雪害の検証を行うのであれば、そういった数字もしっかり検証すべきではないかと考え、当局に問うものである。

④ 富山市の街づくりに対する考えについて

線引き都市計画とコンパクトシティ

コンパクトシティ政策こそが、私の住む地域や周辺地域が廃れる原因だと私は議員になるまで考えていた。

中心市街地開発に多額の富山市予算が使われていると思ひ込んでいたからである。

しかし、中心市街地における大型開発は、国の立地適正化政策の後押しと、民間企業の資金を呼び込む効率的な政策であることが分かってきた。

そして、このコンパクトシティ政策の最大の敵でもあり、富山市の偏った発展の原因でもあるのが、昭和43年にできた都市計画法であり、富山市に昭和46年に富山高岡広域都市計画として導入された富山市の都市計画の

線引きそのものではないかと考えるようになってきた。富山市の南部を貫く草島東線、および草島西線の起点は、和合にある四方荒屋交差点である。この四方荒屋交差点のほぼ対角線の外側にある、藤木、山室あたりに富山市の重心が下がっている。この沿道には、多くのトレンドイナ店が出店し、人口が集中している。

そしてその発展は、市の外部にも広がり、舟橋村や立山町に、恩恵が流れ出してしまっているような気がしてならない。それらの地域には富山市の都市政策は通用しない。富山市がどれだけ、中心市街地に力を入れても穴の開いたザルのように、まちづくりは流れ出してしまふのである。私は、富山市の重心を

もっと北に引っ張って、補正すべきではないかと考えている。都市政策は、教育環境や子育て政策にも直結する。学校再編が今後のテーマとして上がってくるが、子どもが多い、少ないは地域の特徴ではなく、その地域の人口の集中によるからである。

調整区域の悪影響からの解放

一方、昭和46年に市街化調整区域に指定されたエリアは、引き換えに恩恵として受けるはずだった農業が産業として成り立たないまでに落ちぶれ、耕作が厳しくなった田んぼの始末に、涙を流す人たちがいる。

私が農振除外についての質問を行った際に、森市長から20年以上前の県議時代に行った同様の質問の文面を貰った。

当時から、農家と集落はまるで江戸時代のように、地面に縛り付けられている。森市長に最後の見解を問うてみたい。